

寒冷期の乳房炎対策

乳頭の凍傷（しもやけ）

冬期間は、環境温度の低下によって、大腸菌性乳房炎など環境性原因菌による乳房炎の発生は夏場に比べると少なくなりません。その一方で、伝染性乳房炎である黄色ブドウ球菌性乳房炎が増えて問題となってくる場合があります。この原因として、乳頭が凍傷によって荒れてしまうことが考えられます。

乳頭の凍傷は、搾乳終了後に行うポストディッピング液で乳頭が濡れたまま冷たい風に当たることが原因である場合が多いといわれています。しかし、ヨード系薬剤によるポストディッピングは黄色ブドウ球菌など伝染性乳房炎を防除する上で欠かせない技術でありますから、ディッピングを省いてしまうわけにはいきません。

冬期間はディッピング液が乾くのに10分くらいかかるといわれていますので、ディッピング液を温めて使用するようになります。パーラー搾乳では、ディッピング後の乳頭が戻り通路で冷風に当たらないように工夫してみるとよいでしょう。厳寒期にはディッピング後30秒くらいで、ペーパータオルで拭き取って乾燥

させるという方法もあるようです。ローションタイプの乳頭皮膚保護剤が市販されていますが、殺菌効果のあるヨード系薬剤と一緒に配合された製剤を使用するのがよいでしょう。

潰瘍性乳頭炎

凍傷の他にも、寒冷期に発生しやすいといわれている乳頭のトラブルに、潰瘍性乳頭炎があります。ほとんどが分娩直後の乳房浮腫の強い初産牛に発生すると言われています。原因はヘルペスウイルス2型とされ、感染すると、初期に乳頭に小さな丘疹ができ、1～2日で水疱を形成します。この水疱は搾乳作業などによる接触でまもなく破れ、乳頭表皮が脱落して赤くただれたようになり、疼痛を示します。その後炎症が進むにつれて乳頭皮膚は硬くなり、黒く変色してかさぶた状になります。この症状が一本の乳頭だけでなく、複数の乳頭に順次現れる

場合が多いです。疼痛と乳頭の柔軟性が失われるために、その多くが搾乳困難となり、乳房炎を発症して治療困難となることがほとんどです。症状が進むと乳頭自体が壊死して根

元から脱落してしまうこともあります。

対策としては、患部への接触を避けるために機械搾乳を中止し、シリコン製の乳頭チューブを装着して排汁させ、ヨード系薬剤でこまめにディッピングを行います。症状の進行が速やかなので、疑わしい症状を見つけたら早めの対処が必要です。治療には、罹患乳頭にイソジン軟膏、消炎剤の添加された抗生物質軟膏などの塗布が試みられていますが、獣医師の指示の元に使用しなければいけない薬剤がありますので、怪しいと思った場合には早めに獣医師にご相談ください。

（虹別家畜診療所 診療課 山本 康了）



写真：潰瘍性乳頭炎で全体がかさぶたで覆われてしまった乳頭（右後分房）